循環経済新聞11月1日発行

プラスチック・容器包装・再生資源

硬質系プラ積極受け入れ

単品持込なら高値で買い取り

丸松産業

「その他プラ」のマテリアルリサイクルに取り組む丸松産業（東京都板橋区、松崎一志社長、☎03・3550・9208）は、硬質系廃プラスチックの受け入れを拡大する。今年4月、操業を開始した川島再商品化工場（埼玉県比企郡）第2工場は廃プラスチックを選別、破砕、洗浄、ペレット化が可能。1時間当たり1㌧の生産能力を持ち、多少ゆとりがある。同社では「きれいに分別し、単品で持ち込んでくれたら高めで買い取れる」と話している。

川島再商品化工場

持ち込まれた廃プラ類

川島再商品化工場の第1工場は、容器包装リサイクル法に基づくその他プラの再商品化工場で2007年4月から稼働。2010年度は埼玉県川越市のその他プラを引き取り、再商品化、取扱量は年間680㌧。

今後もその他プラを主軸にリサイクル事業を進める。第2工場とあわせ日量5㌧以上の処理ができるよう許可を申請中。同社はこれまでも地域のイベントに積極的に参加、信頼感が増している。

容器包装廃棄物以外の硬質系プラスチックのリサイクルも事業の大きな柱。同社は硬質系プラスチックのリサイクル工場としても草分け的存在である。

硬質系プラスチックは、衣装ケース、ポリバケツ、洗面器、車のバンパーなど自治体の粗大ごみ系と、工場系のプラスチックスクラップとがある。これらをチップ化し、国内の企業向けに出荷、プラスチックパレットや床材、車のタイヤ止めなどに製品化している。

同社のリサイクル原料に対する需要は多く、再生プラスチックの原材料となる廃プラスチックを少しでも確保したいのが本音。

買い取り料金は品質にもよるが、キロ1円から20円。「工場系プラスチックは比較的汚れておらず、きれい。産廃系（建廃系）プラスチックは混合状態で汚れがひどく、選別や洗浄が大変であるが、一定量の原材料を集めるため（産廃系プラスチックも）受け入れている」（同社担当者）と話す。

昨年、中国など海外へ輸出していた他業者の軟質系プラスチックも、景気の後退で価格が下落、コストが合わなくなったため、有価で買い取る同社の存在が注目を集めた。同業者の口コミや紹介で受け入れ量が増えてきているという。

一方、処分場がひっ迫している自治体では、粗大ごみなど硬質系プラスチックは焼却か埋立処分するしかなく、リサイクルに回して減量化したいところ。

同社が硬質系プラスチックのマテリアルリサイクルを三多摩地区の自治体に提案したところ、即採用となり、現在、受け入れている。また、埼玉県内の市町村自己負担3％分のその他プラの再生も行っている。